



中部人懇だより

令和8年度 第2号
令和8年8月発行
中部地区人権教育懇談会



中部人懇とは？



「中部人懇」とは「中部地区人権教育懇談会」を略した呼び方です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進を図ることを目的に、1971年（昭和46年）に発足しました。

差別の現実を知り 自分事として学び続ける

——【第2回懇談会 報告】 令和8年7月30日（木）実施 参加者：75名 ——

第2回は、これまでに中部人懇への参加経験がない方を主な対象として開催しました。「差別の現状と差別にであった時の対応」という演題のもと、倉吉市人権文化センター 下吉真二所長に御講義いただき、懇談を行いました。身近に存在している部落差別の現実をもとに、私たち教育者は何を学び、どのように子ども達と接していくのかお話しいただきました。差別を見抜き子ども達とともに考えようとする姿勢が大切であること、そのためには私たち大人が自分事として学び続けることが大切であること等を実感した懇談会となりました。



講義



グループ協議

参加者の振り返りより

- ★差別につながる小さな芽を見逃さず、子ども達に考えさせることができる時間を持てるようにしたい。
- ★差別について、自身がする立場になっていないか、見逃してしまっていないかという意識を高くもたなければならないと感じた。
- ★自分の心の中の差別心に気付き、その心と向き合うこと、それが差別を許さない生き方の土台となる。
- ★様々な場面において、差別する側あるいは差別される側になりかねない社会の中で、相手の立場や気持ちを想像しながらどう行動できるかが大切。
- ★下吉さんのように差別と闘う、差別をなくす姿勢を一人一人がもつことにより、誰にとっても住みやすい社会につなげることができる。
- ★下吉さんが言われた「差別と闘う」ということは、相手と強い言葉でケンカすることではなく、自身の授業を磨くこと、人間性を高めること、子どもとまっすぐ向き合うことだと自分は思った。

第2回懇談会を振り返って ～中部人懇 市町担当者より～

- 差別を他人事とせず、正しく見極めて行動する姿勢が子どもたちの安心につながります。差別に気づき、伝える力を培うためにも、一人ひとりが人権感覚を磨き、継続した学びを深めていくことの大切さに改めて気づく機会になりました。
- 「差別は許さない」と熱のこもった講師の講演でした。教員による差別事件を機に発足した中部人懇が、このように教員の学びの場として続いているのが素晴らしいと思います。園・学校で子どもたちの教育に携わる者が集って学ぶ「中部人懇」が、これからも熱意を失わずに続いていくことを望んでいます。